

被爆地ヒロシマが被曝を拒否する

— 過去は変えられないが未来は変えられる —

伊方原発運転差止広島裁判

2020  
3  
4  
本訴  
水

# 第 18 回口頭弁論期日

## 原告の意見陳述を予定しております

応援に、傍聴に、ぜひお越し下さい。みなさま一人一人のふるさとへの  
思いや関心が、世の中や、司法を動かす原動力です。

### 2020年3月4日当日スケジュール

12:40	広島弁護士会館 3F 大ホール 開場
13:00	「伊方原発を襲う震度7地震想定」ミニレクチャー
13:30	広島地裁へ移動開始
13:40	広島地裁前、南西角交差点に集合
13:45	広島地裁へ乗込行進開始
	広島地裁内へ 広島地裁玄関口にて手荷物検査があります。
14:00	傍聴券抽選開始 傍聴希望者が多い場合は傍聴券抽選があります。 進行協議開始 (非公開)
14:30	第18回口頭弁論開始 (今回は300号法廷です)
14:45頃	口頭弁論終了見込み・広島弁護士会館3Fへ移動
15:00頃	記者会見・報告会開始
16:30頃	終了予定

2020  
7  
1  
本訴  
水

次回期日のお知らせ

### 第19回口頭弁論期日

場所：広島地方裁判所  
14:30 口頭弁論開始

もうすぐ9回目の  
3.11です

【写真出典】「福島第一原発3号機2011年3月15日頃」東京電力webサイトより

南海トラフ巨大地震想定 (愛媛県地域防災計画)

# 伊方原発を襲う震度7 1,500ガル以上



#### 【基準地震動とは】

基準地震動は、原発の耐震設計の基準です。つまり伊方原発は650ガルの地震動に耐えられるよう設計されています。1500ガルには…当然、耐えられません。650ガルは誰が見ても、過小です。

詳しくは裏面をご覧ください

【主催】伊方原発広島裁判事務局

〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203 電話：090-7372-4608

E-mail : saiban\_office@hiroshima-net.org URL : https://saiban.hiroshima-net.org

# 地震に対してあまりに脆弱な伊方原発

日本最大の活断層帯「中央構造線断層帯」のほぼ真上、さらに南海トラフの想定震源域内という最悪の立地条件を抱える四国電力伊方原発の基準地震動は 650 ガルです。

**日本の原発の耐震設計基準は、一般建築基準法の制約を受けず、原発敷地ごとに最大最強の地震動を予測して、それを耐震設計の基準としています。**

(最大地震動を精度良く予測することはできない、というのが現在地震学会の最新の科学的知見なのですが。)

四国電力は伊方原発 3 号機を襲う最大・最強の地震動を 650 ガルと予測し、原子力規制委員会はこれを「合理的」として審査に合格させました。

いいかえると、伊方 3 号機は「地震動 650 ガルまでの地震に耐えられます。それ以上の地震に対しては起きてみないとわかりません。」ということになります。

## 愛媛県の地域防災計画（地震災害対策編）

愛媛県は、中央構造線活断層帯と南海トラフの 2 つの巨大地震に襲われることに特に警戒感を示しており、さまざまな計画を立ててまた県民に警戒を呼びかけています。中で中央構造線活断層帯のうち、石鎚山脈北縁から伊予灘までの活断層が連動して動いた場合、伊方町は震度「7」と想定しています。また南海トラフを震源域とする巨大地震が発生した場合も伊方町の震度は「7」。

## 震度とガル（加速度）との対応

「震度」は気象庁が定める地震階級ですが、もともと体感を基にしているため、厳密な科学的概念とはいえません。現在では科学的概念としては加速度（ガル）が使われています。基準地震動 650 ガルも加速度で表示されています。

それでは愛媛県の想定する震度「7」は、加速度ではどのくらいになるのでしょうか？その目安が国土交通省・国土技術政策総合研究所が使っている「概略対応表」です。この対応表によれば震度「7」の揺れは 1500 ガル以上。

## あまりにも脆弱な伊方原発の耐震性

ちょっと待ってください。伊方原発 3 号機は 650 ガルまでの地震に耐えられるのでした。それなのに愛媛県の想定する地震は震度「7」、つまり 1500 ガル以上。これで伊方原発は耐えられるのでしょうか？耐えられる筈がありません。あまりにも地震に対して脆弱すぎるのです。

## 愛媛県の地震被害想定

愛媛県は巨大地震が襲った時の被害想定もしています。その被害想定では、中央構造線断層帯の巨大地震が襲来したときの伊方町の最大加速度は、1339.6 ガル、南海トラフ巨大地震の場合は 1531.7 ガルとしています。

繰り返しになりますが、愛媛県の被害想定によっても伊方原発の 650 ガルはあまりに低い数字です。しかも愛媛県の被害想定は過小の可能性がります。というのは**過去日本を襲った震度「7」の地震で、最大加速度が 1700 ガル未満だったことは一度もない**のです。

地震に対してあまりに脆弱な伊方原発 3 号機の運転は是非ともやめてもらわなくてはなりません。

表 1 伊方原発の所在する伊方町で想定される震度と最大加速度

想定地震	震度	最大加速度
南海トラフ巨大地震	7	1,531.7 ガル
石鎚山脈北縁西部-伊予灘の地震	7	1,339.6 ガル

【資料出典】「愛媛県地域防災計画（地震災害対策編）」15P  
「愛媛県地震被害想定調査 第 2 編 地震動・液状化・土砂災害」128P

表 2 震度、最大加速度の概略の対応表

震度等級	最大加速度（ガル）
震度 4	40～110 ガル程度
震度 5 弱	110～240 ガル程度
震度 5 強	240～520 ガル程度
震度 6 弱	520～830 ガル程度
震度 6 強	830～1500 ガル程度
震度 7	1500 ガル程度～

（国土交通省 国土技術政策総合研究所）

### 【基準地震動とは】

日本の原発は、新規規制基準によれば、敷地ごとに将来襲う最大・最強の地震による揺れ（地震動）を予測し、この揺れに耐えられるように設計されなくてはならないとされます。この最大・最強の揺れのことを「基準地震動」といいます。したがって日本の原発は、基準地震動を耐震設計の基準としています。四国電力伊方原発は基準地震動 650 ガルが耐震設計基準で、この揺れに対して耐えられれば良い、とされているのです。

敷地を襲う最大の地震動を予測できないとする最新の科学的知見からは、とんでもない決め方です。

### 【加速度（ガル）とは】

地震の揺れ（地震動）を表すのに一般には気象庁の震度が使われています。しかしこれは厳密な科学的概念ではありません。厳密には 1 秒間に何 cm 動いたか、を表す「速度 (cm/s)」と、1 秒間にどれだけ地震の速度が速くなったかを表す「加速度 (cm/s<sup>2</sup>)」の 2 つの概念が使われています。この加速度の単位がガル (gal) です。一方、速度の単位はカイン (kine) です。

本来地震動を、厳密に科学的に把握しようとするなら「ガル」と「カイン」の 2 つの指標から同時に把握しなくてはなりません。